

令和2年度 古文書講座 武家の女性の書状を読む

天保十四年（一八四三）五月十四日付「世川作之丞宛世川龍（りゅう）書状」

【解読文】

（端裏）

「旦那様

りゅう

御内々御返事 無事」

御からだ御大事ニ少しつゝ

御酒御肴ニても御上り遊し

御保養被成候て御わづらひ

不被成候様いのり上まいらせ候

おりくゝ武八郎参り

いろくゝてんご申候てハ

大わらひ致まいらせ候きんばん

ニてハ大口はなしニて

私親ハ百里先ニ居候へ共左様ニも存不申

あなた様ニわかれ居申候ニハま事ニ

万事ニ付こまり入まいらせ候月日も

立候ハ、あなた様も御帰り被成親も帰り

可申とたのしみまいらせ候

御内々私へ被仰下候御状

御わらひ

拝見

被成候事多く御座候半と

申上候

存まいらせ候

折々私のゆめ御らん遊し候由

母上様始子共よくきを

ありかたくま事ニ私も

つけ候様被仰下かしこまり

あなた様の事ハ朝夕

まいらせ候

わするゝ

わたくし事もさむさを

ひまなく御なつかしく

こらへて居不申候様

存くらしまいらせ候御酒少し

被仰下

御上り被成候へハおりうくゝと

ありかたく存上まいらせ候

御よび被成候とて皆様

ずいぶんくゝ

御わらひ

用心致可申候めてたくかしく

被成候よしきんばん中の

五月十六日

御人皆様左様の事多く

尚々私もあなた様の御帰り

御座候よし御もつともニ

被成候ゆめを度々見申候

存上候

とふぞ

はやく月日をたて御目ニ懸り

はやく御かほが見たく存上まいらせ候

いろくゝ御はなし申上たく

めてたくかしく

まちくらしまいらせ候あなた様

【大意】

私の親は百里先にいても、このようには思いません。あなたが、あなた様と分かれて居ることは、本当に万事につけ困っております。月日も経てばあなた様もお帰りなされ、親も帰るかと思しみにしております。

内々に私へ下さった手紙を拝見しました。折々に私の夢をご覧になれることはありがたいことで、ほんとうに私もあなた様の事は朝夕忘れることなくお懐かしく暮らしております。御酒を少し召しあがったらおりうおりうとお呼びなされ、皆さま御笑いなされるとのこと、勤番中の皆様はこのよゆうな事も多くあるとのこと、ごもつともだと思えます。早く月日が経ち御目にかかり色々御はなし申し上げたく待ち暮らしております。あなた様も御体を御大事にして、御酒や御肴も少しずつ召しあがり御保養なさって病氣にならないように祈っております。折にふれ武八郎が参り色々冗談を申しては大笑いいたしております。勤番では大げさなことを言ってお笑いなさることも多いことかと思っております。母上様をはじめ子共の面倒をよくみるようにとこのと、かしこまりました。私も寒さを我慢しないようにおっしゃってくださいありありがとうございます。十分に気を付けるつもりでございます。めでたくかしく、

五月十六日

尚々、私もあなた様の御帰りになる夢を度々見  
ております。どうか早く御顔が見たいと思つて  
おります。めでたくかしく